

WORLD HEALTH SUMMIT

REGIONAL MEETING ASIA

KYOTO 2015

Resilienceを医療に

— 医学アカデミアの社会的責任



2015年4月13日(月), 14日(火)

会場 | 国立京都国際会館 **同時通訳**

主要テーマ **超高齢社会への挑戦**
自然災害への対応と準備
次世代リーダーシップの育成



特別講演①
高橋 政代 理化学研究所
iPS細胞を用いた網膜細胞組織の
ヒトへの移植を世界で初めて実施。
「2014年に最も注目すべき5人」
(英*Nature*誌)



特別講演②
山海 嘉之 筑波大学大学院教授
世界初のサイボーグ型ロボットである
ロボットスーツ「HAL」を開発。

参加費	早期登録 (2/28まで)	事前登録
一般:	18,000円	20,000円
研究者:	11,000円	13,000円
学生:	1,000円	2,000円



基調講演：最新情報は公式HPをご覧ください



John Z. Ayanian
University of Michigan 教授



Barry R. Bloom
Harvard School of Public Health 教授



Ichiro Kawachi
Harvard School of Public Health 教授



Peter Piot
London School of Hygiene and
Tropical Medicine 大学院長

日本医師会生涯教育講座 (5単位/日)
日本プライマリ・ケア連合学会 専門医・認定医更新 (5単位)

公式ホームページ(日本語)
www.worldhealthsummit.org/regional-meeting/

主催 京都大学   共催 福島県立医科大学 

後援 文部科学省、復興庁、外務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省
日本医師会、第29回日本医学会総会2015関西、日本プライマリ・ケア連合学会
公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金
公益財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団(順不同)

運営事務局 〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-13-10-601 株式会社プライムインターナショナル
E-mail: office@worldhealthsummit.jp TEL: 03-6277-0117

近未来の医療を支えるプライマリ・ケア



丸山 泉

日本プライマリ・ケア連合学会 理事長



トーマス・イヌイ

Indiana University 教授

演者	Leiyu Shi	(Johns Hopkins Primary Care Policy センター長)
	Amanda Howe	(University of East Anglia 教授 (次期世界家庭医療学会会長))
	Lee Kheng Hock	(Singapore General Hospital 准教授)
	草場 鉄周	(日本プライマリ・ケア連合学会 副理事長)

日本は、多くの高齢者を少ない生産年齢人口で支えていくという大きな困難に直面している。

こうした社会では、多疾患を合併する高齢者に対し、医療に加え介護の側面からも生活全体を支えるケアを包括的に提供することが重要だ。政府は「地域包括ケアシステム」を提唱し、医療政策もその方向にシフトしつつある。その際、患者の生活環境の中で医療を包括的に継続して提供するプライマリ・ケアの専門家は欠かせない存在と言えよう。ただ、日本の医療制度は伝統的に臓器別のスペシャリストの育成に重点が置かれ、プライマリ・ケアを専門領域として捉える意識は医療界全体に希薄であった。

2013年、政府は専門医制度改革の一環として総合診療専門医制度の創設を決定。2020年度には最初の専門医が誕生する予定だ。同専門医こそ、日本のプライマリ・ケアの一翼を担うと期待されている。日本の医療界がプライマリ・ケアの強化へ動き出した今、諸課題を世界の専門家と共有し、各国の例とも対比しながら解決策をグローバルな観点から検討する。

Primaria 第9号より (<http://www.primaria.pro/>)

主なセッション

ソーシャル・キャピタルと健康

座長 Ichiro Kawachi (Harvard School of Public Health 教授)
近藤 克則 (千葉大学教授、JAGES 代表)

日本社会に根づく「持ちつ持たれつ」の精神。ソーシャル・キャピタル(社会的な絆)の豊かさが日本の長寿を支えているのではないかとの研究が進んでいます。健康に長生きする秘訣を、社会疫学の生みの親、Ichiro Kawachi氏と検証します。

Global Health R&D

座長 Peter Piot (公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金 理事)
黒川 清 (政策研究大学院大学アカデミックフェロー、
日本医療政策機構 代表理事)

グローバリゼーションが急速に進む中、国境を越えた様々な疾患に対して、地球規模での取り組みが求められています。日本はどのように国際貢献できるのか、エボラやエイズ研究の第一人者として国際的な政策立案に携わってきたPeter Piot氏とともに、議論します。

医療技術評価(HTA)

座長 川上 浩司 (京都大学教授)
Mondher Toumi (リヨン第1大学教授)

多くの先進国では、医療費の効率化のために医療技術の経済評価を行い、償還・価格の決定といった政策に利用しています。しかし、その方法は国によって様々です。各国のHTAの現状や問題点を、欧州のHTAの中心人物の一人であるMondher Toumi氏を迎えて議論します。

その他の主なセッション ※詳細はホームページに随時更新中

健康を地域で支えるまちづくり

医療ビッグデータ

医学アカデミアの新しいリーダーシップ醸成

災害後の回復可能な社会の構築ー福島の実験から